叙

凡句中に畫あるもの、又画中に句あるものあり其句中に畫ある家物ハ門生花藍が四時乃圖を備てやりあへど世都濃登起と題すはれど一句として鄙昼夜陰晴の混合あらく繪難房れ誹をなさ

あしもあしびさへ畫中の句たちまち
さ枕ぢと見ゆらしきゆゑ人

日居月諸中に虚実の花のうち

東都
一陽井素外

安永甲午歳

貞知

猿曳に
ひかれ歩行や
町童

一巴

宝引や
またのしゞら
釣ちらる
江島

猿ひきや
みも
梅見乃
見知越

畑中に何のかゝら雉乃聲
青芝
走る魚や波をひらく乃枝の花
雀歩
白魚とりみなもや吾妻れゑ插と
亀足
亀齢
雉啼や菜乃花白よ朝ぼらけ

素竹
世上 三

亀仙
市町
世上 四

一鳥
初午や二日ハまとむりしらるも

花笠加津
ちつむ雨や江戸乃彼岸てはしかへ庭

素嶋
若菜やあしみとさ茶屋り一座敷

宝国
まつるさやはれ小せうらみ夜れ妻

久喜 輕舟
奥州南部盛岡 芦皓

帯外
野蒼
帯路

雛柳や
酔ふ女も
引あけて

鐘なくハ
迷ふ花乃
山路かな
苔雨

山川れ
日を追のわふ
小あゆかな
甚虹

ゐ鉢や
なられに
鏡よ
二日月
二龍

花より樗
嵐や
まれに
行のさる
朝四

苗代に一日〱のまさるな

素英

数ほどにきちりみえね蛙なる

常泉
水樹

苗代や秋のみのりも二葉より

内玉府間
文杲

鄙風俗れ前みあるきかせんな

下毛真岡
素兄

藤咲や
松ゟも
月の
わつらく
慎我

寺ゐてぬ
古井
古池
藤乃花
秋方